



今後の公共施設等の管理

佐藤 剛太



問 岩沼市は平成26年11月現在、総延べ床面積で約14万平方メートルの公共施設、公共建築物を保有しており、市民1人当たりでは約3・1平方メートルの延べ床面積を保有している。今年度中に改定される計画では、それがどのように変わったのか伺う。

政策企画課長 見込みの範囲内での回答になりますが、総延べ床面積は、約17万平方メートルになっています。市民1人当たりの延べ床面積は、3・1平方メートルから3・8平方メートルになりました。

問 築40年を経過した公共建築物の施設名と築年数を伺う。

政策企画課長 築40年を経過した建物は20施設で、岩沼北中学校の屋内運動場が築58年、岩沼小学校の校舎が築51年、市民体育センターが築49年になります。

問 これまでの計画では既存の公共施設等を全て更新する場合の更新費用は、40年間で総額139億1億8000万円から1819億2000万円が必要と見込まれていた。改定版では、どう変わったか

伺う。

政策企画課長 令和4年度から令和37年度までの34年間で、総額は約1360億円から1760億円となります。1年当たりの更新経費の比較で、当初は1年当たり34・8億円から45・5億円でしたが、更新後は40・1億円から51・9億円の見込みで、1年当たりは増額となっています。

公民連携で施設運営を！

問 他自治体では公民連携で公共施設の建築、運営を行っている。岩沼市においても積極的に公民連携を取り入れるべきと考えるが、岩沼市の公民連携を活用した公共施設の整備や運営についての考えを伺う。

政策企画課長 これからの公共施設の整備等において、民間の力を活用していくことは、今後一層重要性を増していくものと考えています。施設整備を検討する際や施設の管理方法を見直す際には、当初から公民連携を選択肢の一つとして考えています。



仙台空港運用時間延長に係る要望事項

佐藤 一郎



問 志賀沢川改修工事の早期着工について伺う。

政策企画課長 昨年、県で策定した「見える川づくり計画」の中に位置付けられ、早期改修の要請をしています。令和7年度以降に着手すると位置付けられています。

新産業エリアに矢野目西

問 矢野目西地区の開発は、市の都市計画マスタープランでは、新産業エリアとして位置付けられている。今後の開発について伺う。

政策企画課長 開発や立地に関する民間企業の意向を把握すべく、県の補助事業を活用して矢野目西地区の南側も調査対象地区の一つに含め、産業用地調査を実施し、調査結果を取りまとめています。

問 仙台空港アクセス線の延伸は、3時間延長の際に覚書を取り交わしている。矢野目地区住民の利便性、矢野目西地区の開発と連動し必要と思うかどうか。

政策企画課長 覚書の事項がまだに達成されていないことは極めて遺憾です。フロンティアパーク

地内の地域活性化拠点施設の実現や、矢野目西地区・空港周辺地域の開発に伴い、新たな旅客需要の創出が必要という県の理屈も一理あると考えます。県、関係機関に引き続き要望したいと考えます。

問 フロンティアパークのどこの部分をにぎわい創出の拠点として考えているのか伺う。

政策企画課長 施設の機能は、これから詰めていきます。空港の滑走路が一望でき眺望性に優れた場所であり、立地する施設は特性を生かした配置になると考えます。

問 矢野目地区の明るい未来に向け、地域コミュニティの維持や新たな人口流入を図るため、空港との共存共栄が必要だが、取り組みを伺う。

政策企画課長 矢野目地区が持続可能な町となるため、土地の流動性を高めるよう市街化区域への編入や、地区計画の導入について県、矢野目地区の住民の皆さまと検討したいと考えます。

◎その他の一般質問
・空き家対策